

月刊 ととろ



独立行政法人国立病院機構
いわき病院

第218号

令和4年9月発行

National Hospital Organization Iwaki National Hospital

信条

- ◆ 患者さま本位の医療を行います
- ◆ 患者さま及び家族の生活を大事にします
- ◆ 科学的根拠に基づいた質の高い医療を提供します

体験教室 (写真撮影 & フォトフレーム作り)

重症心身障がい児(者)病棟では、新型コロナウイルスの影響で今年度も行事の中止や縮小をしている状況が続いております。以前は、院外に出かける行事を実施しておりましたが、コロナ禍のため、院外行事(バスハイキング)を中止しています。また、ご家族との面会も制限しております。そのような状況が続くなか、患者様に

楽しんでもらう企画として、今年度の体験教室は“写真撮影&フォトフレーム作り”を企画しました。

指導室で、患者様はどのような風景で写真を撮りたいかな?と、意見を出し合い、ディズニーランドのシンデレラ城、水族館、お花畑のフォトスポットを制作しました。3つの背景のなかから、好きな背景を選んで写真撮影をします。そして、その写真を入れるフォトフレームをスタッフと一緒に装飾し、写真を入れて完成!そのフォトフレームをご家族に郵送します。

各病棟グループをつかって、実施します。第1回目が8月31日より始まりました。少しでも普段とは違う雰囲気を感じてもらったり、スタッフとフォトフレーム作りを通して楽しい時間を過ごしてもらえればと思っています。

療育指導室 保育士:伊藤 梓



あなたが大切な家族を守るためにできること

～新型コロナウイルスに感染あるいは感染の疑いがある場合の対応～

第7波の影響により福島県内はもとより、いわき市内においてもこれまでにない感染状況が続いています。主な要因として、感染力の強いオミクロン株『BA.5』の影響が挙げられますが、流行する株はどんどん変異していき、その特徴も多少変わってきます。

ただし、家族で感染症の疑いや感染が確定された場合の対応としては、どの感染症においても基本的なところは一緒です。「換気」「手洗い」「消毒」この3つが予防の3原則です。では、新型コロナを例にして家庭での具体的な対策を紹介していきます。

1. 家庭内での隔離について

① 感染の疑いがある人と他の家族の部屋を分ける

自宅が2階建てなら、2階と1階に分けたり、専用の部屋を用意します。分離が難しければ、カーテンなどで仕切り、マスクをして2m以上離れて過ごしてください。換気も頻繁に窓を開けて行いましょう。

② 食事は一緒にせず、食器等の共用もしない

洗う時は一緒に構いません。

③ トイレの使用時も十分換気

換気扇だけでなく窓も開けましょう。ドアノブなど手で触れるところは、頻回の消毒が必要です。使い捨て手袋を利用して行いましょう。普段は窓、ドアとも開けたままが良いかもしれません。

④ お風呂は感染疑いの人が最後に入る

バスタオル等も個別で使用し、風呂掃除の後は窓を開けてしっかり換気して下さい。使用しない時は、トイレ同様ドアと窓を開けたままにしましょう。

⑤ 洗濯物は別々に分けて洗う

洗濯前には放置せず、洗濯後はよく乾かしましょう。

⑥ ゴミ箱は専用で設置

特に鼻汁等の体液が付着するティッシュなどは、絶対に他の人が触れないよう、ビニール袋に入れて密封するなどして分離して下さい。

⑦ 不要不急の外出は控える

食料の確保等の理由を除き、外出して人と接触することは控えましょう。

2. 体調管理について（家族全員対象）

① 毎日体温測定

体温計は自分専用のものが望ましいが、共用する場合は使用の都度アルコール綿等で消毒しましょう。

② 解熱作用のあるお薬を飲んでいると、発熱しにくいので注意

③ 発熱がなくとも、味覚や嗅覚等に異常が出たら要注意

ワクチン接種等の効果で発熱しない場合もあります。新型コロナを疑う症状が出たら、かかりつけの病院に相談しましょう。

④ 体調が悪化したら自宅待機を指示した保健所や医療機関に相談

自宅待機中に高熱や息苦しさ、だるさが強くなった時にはすぐに相談して下さい。

⑤ 脱水予防のためこまめに水分補給をしましょう

体重が3%以上減少したら中等度の脱水のサインです。早めに医療機関に相談しましょう。

外来看護師長：琴畑 利昌

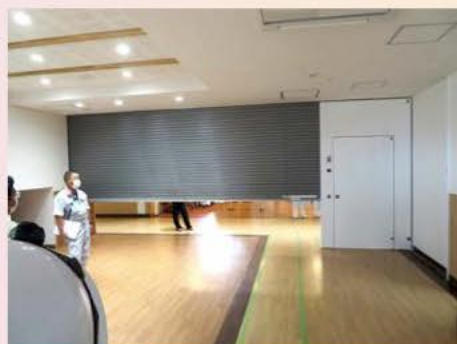


防災訓練

7月12日、院内で防災訓練を実施しました。病棟の休憩室から出火したと想定し、各部門の連携のもと、安全に計画通りに行うことが出来ました。訓練時には、大きなサイレンが鳴ったり、応援の職員が多数かけつけたりと、緊迫した状況になります。病棟は、重症心身障がい児(者)病棟であり、災害が発生した際、患者さんが一人で非難することが困難であるため、不安の軽減を図りながら、安全に移送することが必要です。また、避難後も看護師の安全を確保しながら全室を回り、取り残されている患者がいないことを確認することの重要性を再認識しました。同時に安全に速やかに実施するためには、役割分担を明確にし、マニュアルに明記してある内容を把握し、行動できることが重要であると思いました。

今後も、防災に必要な設備の把握と操作がスムーズに実施できるよう、防火扉、消火器、消火栓の設置場所の把握をするなど日頃から、危機意識を高く持って災害に備えていきたいと思っております。

第1病棟 看護師長：天野 邦子





NHO PRESS ~国立病院機構通信~

いわき病院は、全国 140病院からなる国立病院機構（NHO: National Hospital Organization）のひとつです。

NHO では各病院の活動を紹介する『NHO PRESS』を発行しています。

外来待合室などに設置しています。ぜひご覧になってください。

国立病院機構ホームページでは最新号と過去の『NHO PRESS』を掲載しています。



QRコード

NHO PRESS

検索

いわき病院の診療体制等について

- 診療科目 内科、脳神経内科、外科、脳神経外科、小児科（小児神経疾患）、リハビリテーション科
- 外来受付 8:30~11:30（ただし、急患につきましては電話にてご相談下さい。）
- 診療時間 8:30~17:15

外来担当医師診療日程表 【令和4年4月~】

区分	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前 内科	診察① 鈴木 栄 診察② 市原 利勝	診察② 尾澤 康彰	診察① 鈴木 栄 診察② 齋 敬明		診察③ 内科担当医
	診察③ 脳神経内科	診察③ 倉田 隆志 診察① 尾田 宣仁	診察③ 倉田 隆志 診察① 吉沢 和朗	診察① 倉田 隆志 診察③ 関 晴朗	診察① 吉沢 和朗
	外科			診察② 田崎 博	
■ 専門外来（完全予約制）					
午後 専門外来	(小児神経外来) 柳沢 俊郎		(神経難病) 関 晴朗		(小児神経外来) 柳沢 俊郎



お知らせ

◆患者相談窓口

患者さんやお見舞いの方などからの苦情・相談については、『患者相談窓口』と『ご意見箱』で対応しています。なお、皆様にお知らせした方が良い内容のものは、外来掲示板に掲示しています。

◆当院受診について

他の医療機関に通院中の方は、主治医の先生に当院地域医療連携室を通して診療予約をとって頂いた上で来院願います。



発行元 **独立行政法人国立病院機構 いわき病院**
 National Hospital Organization Iwaki National Hospital
 責任者 吉沢 和朗
 所在地 〒971-8126 福島県いわき市小名浜野田字八合 88 番地 1
 TEL 0246-88-7101 FAX 0246-88-7075
 ホームページ <https://iwaki.hosp.go.jp/>